

3年	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に歌を歌ったり、リズム打ちをしたり、リコーダーを習得しようとしている。 ○リコーダーで、基本的な指遣いをマスターし、きれいな音色で吹こうとしている。 ○歌唱とミニキーボードを合わせる時に、グループで教え合い、テンポを合わせて演奏することができてきた。 ●指導者の音色を注意深く聴き、自分の演奏に生かせようとする児童が少ない。 ●リコーダーで、タンギングを入れなめらかに吹ける児童は少ない。 ●階名読みがまだできない児童が多い。 ●楽譜の基本的な記号を演奏に生かせない児童が多い。 ●地声で歌う児童が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・読譜力の向上 ・演奏で楽譜の記号を活用する力の養成 ・高音に合う発声法の指導 ・音を注意深く聴き、演奏に生かそうとする姿勢
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を活用し、何度も階名読みの時間をつくることで、読譜力をつける。 ・楽譜の基本的な記号を確認し、演奏でどのようにそれを表現していくかを伝え、練習していく。 ・高音に合う発声とはどんな発声かを伝え、高音が出てきたら、その発声で歌えているかを確認しながら進めていく。 ・注意深く音を聴き自分や友達の演奏の課題を見つけられるように、静かに聴く環境を作る。

4年	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に対する意欲が高い児童は、自ら教科書の階名読みを進めたり、楽器の練習を進めたりしている。 ○歌唱について、身体をゆらしたり、マスクが動くくらい口を開けて歌ったりして、高音にあった発声で歌詞の意味を考えて歌う児童が多い。 ○旋律を作る授業で、自分が作ったメロディを、リコーダーで演奏することができている ○リコーダー練習では、サミングの指遣いをほとんどの児童がマスターし、タンギングや音色を改善しようとして試行錯誤を繰り返して練習に取り組む児童も多くみられる。 ●リコーダーと歌唱を合わせた時の発声がか細い。 ●タンギングや音色について、まだ改善できない児童がいる。 ●階名がまだ読めない児童がいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・二部合唱や楽器と合わせた歌唱での発声方法の指導の工夫 ・よく音を聴かせ、音質の違いに気づける活動の充実 ・基礎的な読譜の考え方を身に付けさせる指導の継続 ・グループで教え合い、思いを音で表現する活動時間の確保

<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱で、姿勢について友達と確認しながら、歌いやすい姿勢を追及し、口を縦に開けて、強い響きの声を作る練習を行う。 ・どの音がきれいなのかを知らせたり、気付かせたりする時間をとり、動画を利用して自分の音を確認できるようにする。 ・グループ活動で児童が試行錯誤を繰り返せるように練習時間を多くとれる授業の組み立てをする。 ・教科書を活用して、階名読みの時間をとり、読譜する機会をつくる。
--------------------------------	--

<h2>5年</h2>	
<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱について、高音の発声の仕方を考え、歌詞を音にのせてなめらかに歌う児童が増えている。 ○合奏では、楽器の組み合わせを考え、グループでカウントしながら演奏することができた。 ○リコーダーのタンギングを入れ、サミングも習得してなめらかに演奏できる児童が増えている。 ●音楽の学習に対する意欲が高い児童と積極的になれない児童との差がある。 ●正しい楽器の演奏の仕方がまだ身に付いていない児童がいる。 ●グループ活動で友達まかせになる児童がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から音楽を楽しめない児童も楽しめる指導の工夫 ・正しい楽器の演奏の仕方を伝える時間の確保 ・グループ活動で個人の意見を伝える時間の確保
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞のよさを感じ取る活動を多く取り入れ、友達と感じ方を共有する時間を作る。 ・児童が自らなめらかな歌詞の発音に気づけるように、歌唱特有の言葉の発音を掲示しておく。 ・楽器を扱う時に、その都度正しい演奏の仕方を伝えていく。

<h2>6年</h2>	
<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱において、曲の山等を意識し自分なりに表現をしようとしながら、豊かな発声で歌うことのできる児童が多い。 ○どの児童もリコーダーのサミングの指遣いをマスターして、「つばさをください」をふけるようになった。 ○グループでもったイメージを音で表し、正しい演奏の方法を身に付け、表現の工夫ができています。 ●歌唱について、自信をもって表現できるまでには至っていない児童もいる。 ●自分の演奏に必死で、周りの音が聞けない児童がいる。 ●演奏するだけで満足し、もっと高めるにはどうすればよいかと深める児童は少ない。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが自信をもって歌声を出せる発声法や指導法の工夫 ・自分の音を見つめ、試行錯誤する時間の確保 ・様々な曲に触れる機会の確保
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・曲全体を眺め、曲想を考える時間をとることで、準備してねらった発声をしていく。また、少人数の歌を聴き合うことで、ねらった発声ができているのか確認できるようにする。 ・オーケストラを鑑賞する機会を増やし、視野を広げる。 ・動画を使用して、何が正しい音なのかを伝え、自分の音をよく聴いて、試行錯誤できる時間を作る。